

第 65 巻の広告掲載会社名および商品名

アステラス製薬	(株)		(株) 大塚製薬工場	ビーフリード
中外製薬	(株)	ゼロータ	田辺三菱製薬	(株) ルパフィン
第一三共	(株)	ネキシウム		

(ABC 順)

編集委員会

編集委員長：伊豫田 明
 編集委員：赤羽 悟美 弘世 貴久 池田 隆徳
 石井 良和 片桐 由起子 近藤 元就
 三上 哲夫 水野 雅文 中野 裕康
 佐藤 二美 島田 英昭 和田 弘太
 編集顧問：杉山 篤 津熊 久幸

(ABC 順)

編集後記

このたびの Toho Journal of Medicine Vol. 4 No. 3 では、Review Article 1 編と Original Article 2 編、Short Communication 1 編が掲載され、東邦医学会誌第 65 巻第 3 号では、巻頭言にはじまり、東邦医学会総会のご講演内容の総説、原著、学会参加記、教室紹介と、その内容は多岐にわたっています。2015 年に英文誌と和文誌にわかれてきましたが、それぞれが特徴ある雑誌に成長してきていると感じられます。

東邦医学会誌から Toho Journal of Medicine が派生誕生しましたが、その目的には、「発信力の拡大」がありました。英文雑誌になったことでより多くの方に読んでいただけるチャンスを獲得し、将来に向けた Impact Factor 獲得の可能性も誕生したということになります。

臨床にしっかりと取り組み、より良い医療を多くの症例に提供することが得意な東邦大学において、IF などというと、「業績偏重」とか「臨床軽視」というイメージが浮かんでくるかもしれません。しかし、最近みた医療ドラマの中に、心に残るセリフがあったので紹介します。海堂尊原作の「ブラックペアン」の一節です。嵐の二宮和也演じる天才外科医が、次々と患者を救うストーリーの一方で、大学教授達が、IF を競い合うストーリーが並走しているのですが、そんな中、IF 獲得合戦に加担しているようにみえたジャーナルの編集長が言ったセリフです。「世界のどこかの誰かの論文が、世界のどこかの誰かの命を救う。それが論文の意義である」。

その人物には、希少疾患から一命をとりとめた既往があり、彼の担当医が論文から治療方法を見つけたことで彼の生命はつながりました。それゆえに彼は論文編纂という価値ある仕事を職業に選んだという隠れたストーリーがあって、このセリフはそこから発せられたものでした。

私たち東邦大学が得意な臨床。そこに発信力が加わったらどれほどのパワーになるでしょう。論文執筆は、元来、業績のためのものではなかったはず。「それを読んだ誰かの役に立つ」。そんな Toho Journal of Medicine を皆様と共にめざしていきたいと思えます。

(片桐由起子)

東邦医学会雑誌 第 65 巻 第 3 号

平成 30 年 9 月 1 日発行

編集兼 伊豫田 明
 発行人

〒143-8540 東京都大田区大森西 5 丁目 21 番 16 号
 東邦大学医学部本館 3 階

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3762-5077

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原 3-46-10

株式会社 杏林舎